

口頭④

適切な吸入指導が治療のカギ！！ ～吸入療法の質の向上を目指して～

上野店
○関口 加代子

台東区では、処方医師と薬剤師とのより良い吸入支援連携を目指して、「吸入指導依頼書」および「吸入指導報告書」を用いた「吸入支援連携システム」を立ち上げるために、吸入指導のレベルアップと吸入支援連携を目的とした吸入支援講習会が開催されている。

喘息・COPD 患者の吸入療法は、吸入器の手技の習得とアドヒアランスの向上が必須であり、吸入指導が欠かせない。吸入指導には、薬局以外にも医師、看護師、病院薬剤師、病状によっては複数の施設・職種が関わるようになってきている。講習を受けるなかで、吸入手技は時間の経過と共に患者独自のルールになってしまうこと、統一性のない指導は患者の混乱の元になり、指導の継続と指導内容の統一化がきわめて重要であることが分かった。そして患者の QOL とアドヒアランス向上のために、薬剤師が吸入指導に介入する意義は大きいと改めて感じた。

【目的】

吸入支援連携システムが稼働する前に、上野店での吸入指導のレベルアップを目指す。

【方法】。

- ①上野店での吸入指導の現状調査
- ②問題点の抽出
- ③指導方法・内容の検討

【結果】

従来行われていた初回時のデモ機を使った取り扱いのみの説明では、実際に「やってもらおう」と上手く吸入できないケースが見られた。

2回目以降は、ピットフォール（落とし穴）を確認することで、患者からの新たな問題や疑問の提示があった。

【考察】

2回目以降の指導は、初回より時間が制限される事が多く、効率的な確認方法が求められる。ピットフォールの確認をする事は、定期的な吸入手技の確認に効果的であると考えられる。また、初回指導は患者のアドヒアランスの向上に大きく影響するため、「やってみせる」「やってもらおう」実技指導が重要であるだろう。